

特定非営利活動法人 日本ファシリテーション協会

災害復興委員会

2019 年度 活動報告書

Feature

災害時の多様なファシリテーション支援 2019 ～長野、宮城、佐賀、広島～	2
「情報共有会議」から広がるファシリテーション支援 ～2019年、台風19号、長野県での事例より	2
板書練習会で学び、情報共有会議で実践する ～宮城県災害ボランティアセンター支援連絡会議	3
ふりかえりが次の会議をよりよくする ～丸森町災害情報共有会議	4
メンバー間の繋がりが継続を可能に ～佐賀災害支援プラットフォーム (SPF)	5
発災から1年半、約100名が語り合う ～坂町地域支え合いセンター	5

Topics

JVOAD 第4回 災害時の連携を考える全国フォーラム 「多様な組織を巻き込む情報共有会議のあり方」	6
地域コミュニティと組織強化に向けてファシリテーションを身につける 日本カーシェアリング協会、ファシリテーション研修	6
実践体験から、ファシリテーションをより深く！ FAN (ファシリテーター・ラーニング・ネットワーク)、今年度も開催	7
さまざまな支援のカタチを、より多くの方に発信 ボランティア交流サミットひろしまでFAJとして話題提供	7
2019年度活動一覧	8
日本ファシリテーション協会と災害復興委員会	8

災害時の多様な ファシリテーション支援 2019

～長野、宮城、佐賀、広島～

2019年度は、全国で豪雨や台風が重なり災害や災害支援のニュースが一年中身近にある1年でした。日本ファシリテーション協会(以下FAJ)災害復興委員会では、各被災地からの支援依頼やつながりがある組織からのご縁で支援活動を実施してきました。どの現場も、災害の種類、地域特性、支援団体、行政の取り組み方などが多種多様であるため、こうすればいい、といった正解の支援方法があるわけではありません。今回は、委員会が試行錯誤しながら取り組んできた活動を報告します。

長野

「情報共有会議」から広がるファシリテーション支援 ～ 2019年、台風19号、長野県での事例より

2019年10月12日に各地を襲った台風19号は、各地に甚大な被害を与えました。「災害支援にファシリテーション」という考えが浸透してきた効果もあり、FAJ災害復興委員会は、各地からくる会議支援要請の対応に追われることとなりました。そのような中で被災した長野県は、長野県災害時支援ネットワーク(以下、災害支援ネット)が主催して、10月14日には第一回情報共有会議が開催されていました。会議を主催している構成団体の中で主に運営を担っていたのは、長野県NPOセンターでした。発災から1ヶ月を過ぎたころ、全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD)長野担当のスタッフから「長野県の会議運営が大変になってきているので、支援をお願いできないか」という電話が入りました。早速、直接長野県NPOセンターの担当者に電話でヒアリングをしたところ、一日おきに会議を運営するのが物理的にも精神的にもかなりの負担になっていることが分かり、ぜひ手伝ってほしいという要請を受け、FAJとして継続的な支援を決めました。

委員会は11月25日開催の第15回会議から支援に入りました。会議は夜開催ですが、午後から長野に入り打ち合わせをしました。会議の運営担当者は実質一人で、会議案内、配布資料の印刷、会場準備、進行プログラムの作成などを担っていました。もちろん、それ以外の災害対応もあるのですから、限界だったので



長野県情報共有会議の様子

はと思います。委員会は今までに各地の情報共有会議の支援をしてきたので、何が必要で何をお手伝いすればよいのか、少しは想定できるようになっていました。まずは会議進行について相談に乗り、進め方を確認しました。その後、資料の印刷、受付準備、会場づくりと事前準備からはじめました。会議では、前半は板書役をしつつ、進行役の相談にも乗りながら進めていきました。後半のテーマ別の分科会では、ファシリテーターと板書を担当しました。分科会では、出てきた課題を解決するために、参加者同士をつなぐことや、支援団体の経験を引き出すことなどを意識して進行了しました。

会議支援に当たっては、西日本豪雨の時、広島での会議を地元の会員がサポートしてくれた経験から、長野県在住の会員にボランティアをお願いしました。地元の会員は、仕事が終わってから駆けつけてくれました。被災現場の位置や地域名にも詳しいので、板書などとても助かりました。また、地元のみならず、災害支援の経験がある関東圏の会員にも協力いただきました。

はじめに会議支援に入ったとき、高校生や大学生が参加していて、会議の進め方に関心を持ってくれました。委員会としても、西日本豪雨の時、広島で大学生に板書支援をしてもらった経験があるので、ぜひつながりを持ちたいと思いました。その中の高校生が、ファシリテーションを学びたいと希望し、長野県NPOセンターのご協力のもと、1月6日に「長野県高大学生ファシリテーション研修」を開催し、委員会メンバーが講師を担当しました。そこで学んだ高校生と大学生が、翌日1月7日の情報共有会議で板書補助だけでなく、テーマ別分科会のファシリテーターと板書を担ってくれました。

また、情報共有会議を支援したご縁で、長野県NPOセンター内部の会議、信州農業再生復興ボランティアプロジェクトの会議、北部を中心に活動している災害NGO結さん主催の長野県

長沼ほっこりお茶会(情報共有会議)の支援と活動が広がっていききました。こうした活動は、JVOADや現地に拠点を置いて活動している災害NGO結さんなどのご協力のもとに進めることができています。

そして、より具体的な課題解決のフェーズへ移ろうというときに、コロナウイルスが被災地にも影響を与え、3月の会議はすべて中止となっています。今後は、被災地でもオンライン会議の検討も必要かもしれません。被災地での復興はまだまだ始まったばかりです。今後も、FAJとしてできる支援を続けていきたいと思えます。(FAJ災害復興委員会、鈴木まり子)



長野県高大学生ファシリテーション研修。ファシリテーター、板書を実際にチャレンジしてみる

宮城 板書練習会で学び、情報共有会議で実践する ～宮城県災害ボランティアセンター支援連絡会議

台風19号の甚大な被害が発生した後、宮城県内では11ヶ所の災害ボランティアセンターが立ち上がりました。そこで、宮城県社会福祉協議会を中心にして「宮城県災害ボランティアセンター支援連絡会議」(以下、連絡会議)が発足。目的を「各地で支援を行う社協職員の情報共有、片寄りのない支援を行うための社協・行政・NPOの情報交換と課題解決」と位置づけ開催してきました。FAJでは連絡会議に10月19日から参加。県社協とは普段からのつながりがあったため、板書支援などのご依頼をいただきました。



しかし、当時は連絡会議が毎日開催されており、FAJとしては毎日の支援は難しいと判断し、まずは支援人材の育成のため10月24日に「板書ボランティア練習会 in 仙台～災害支援の場での情報共有のために～」を開催しました。実施にあたっては対象を宮城の支援団体、また板書ボランティアに関心を持っている方、夜の会議で支援できる方に設定。結果的に10人の方に参加していただきました。その後は、練習会に参加した支援団体や社会福祉協議会スタッフも情報共有会議で板書を担当していた



仙台での板書ボランティア練習会

きました。日本ファシリテーション協会(以下、FAJ)が板書ボランティアのコーディネートを行いながら県社協と連携しました。

議事録を担当する県社協のスタッフからは「議事録をまとめるのに板書がとても役に立った、要約して書くスピードがすごい」と、参加した支援団体からは「離れた場所からもホワイトボードの字

が見やすく会議に参加していて助かった」という言葉をいただきました。

今振り返ると、この支援連絡会議は、各被災地や各災害ボランティアセンターでの資源や情報のミスマッチを一步解決に進められたと感じています。(FAJ災害復興委員会、遠藤智栄)

宮城 ふりかえりが次の会議をよりよくなる ～丸森町災害情報共有会議

丸森町の災害ボランティアセンターは行政・社協・NPOの3者(丸森町、丸森町社会福祉協議会、YOMOYAMA COMPANY)が連携して設置されました。災害ボランティアセンターを運営する中でNPOでは「情報共有会議」の必要性を認識し、その後「丸森町災害情報共有会議運営委員会」を設置。NPOが中心となり会議を開催しています。FAJでは、災害前にNPOの代表と面識があったことをきっかけに仙台で実施する「板書ボランティア練習会」を案内。また実際に板書支援の状況を見てその効果を感じていただき、情報共有会議の支援の依頼をいただきました。

情報共有会議の目的は「災害情報の一元管理」と「各機関の連携による問題解決」と設定され、NPOのスタッフがファシリテーターと板書を担い会議を運営していました。その中でスタッフから聞いたのが「情報共有会議が大事らしいと聞いたがどんな会議なんだろうか」という声でした。そこで、まずこれまでFAJが支援した被災地の情報共有会議とその進め方のバリエーションや板書のコツをレクチャー。その結果イメージを掴んでもうらうことができたと同時に自分たちの進め方に一定の自信を持っていた

だいたようでした。

その後は「情報共有会議の実践のふりかえりMTG」をFAJが定期的に支援。KPT(※)でのふりかえり、次回の議題や場づくりをどうするか、関係機関との関わり方などを検討し、すぐに次回の会議で実践をされていました。NPOのスタッフからは「ふりかえりの場を設けられてよかった。事前・当日・事後と考えていくことが大事だと気づいた」、「情報共有会議の場に広がりが出てきた。視点がクリアになってきたので更に進めたい」などのコメントがありました。

支援としては他にも、九州北部豪雨や西日本豪雨の事例を伝えたり、発災後から4月間の全体ふりかえりの場のファシリテーションをサポートしました。NPOからは「自分たちで振り返ろうとしたが、話が細かい部分に入り込み進まなかったので助かった」「ふりかえりの際、いろんな問いがあることで自分たちをしっかりと見つめることができた」というコメントをいただきました。(FAJ災害復興委員会、遠藤智栄)

※KPT: Keep(続けたいこと)、Problem(改善したいこと)、Try(あなたに試みたいこと)という3つのフレームで振り返る手法。「ケプト」と読む



丸森町災害情報共有会議ふりかえりミーティング



宮城県災害ボランティアセンター支援連絡会議

活動に際して助成を受けました

中央共同募金会「災害ボラサポ・台風19号(令和元年台風19号に伴う災害ボランティア・NPO活動サポート募金)」助成を受け、宮城県や丸森町、長野県内で行われる情報共有会議の支援活動として板書・サポート人材の育成や運営サポート、また全国情報共有会議の支援活動としてバズセッションの運営や質疑応答や提案の進行と板書を行いました(助成決定額183万円)。

2019年度以前から継続的に支援している案件でも活動内容が多様化しており、ファシリテーションの支援としては広がりを見せています。

左
賀

メンバー間の繋がりが継続を可能に ～佐賀災害支援プラットフォーム(SPF)

災害復興委員会では、令和元年8月豪雨の発災から4日目の2019年8月31日に、被害状況の確認や被災地での支援活動の情報収集のために佐賀県に入りました。そこで出会った団体「佐賀災害支援プラットフォーム(通称：SPF)」は、県内外から集まってくるNPO/NGO等の支援団体との連携や被災地とのコーディネートを行う中間支援組織で、発災直後から佐賀市内で情報共有会議を開催していました。私たちはSPFの代表を務める岩永さんに災害復興委員会のこれまでの活動実績を伝え、その日からSPF内部のミーティングをファシリテーターとして支援することになりました。

発災直後の混乱した状況の中、暗中模索で活動をスタートしたSPFのメンバーは「今、気になっていること」から話し合いを始め、そこから当面の役割分担と1か月の方針を決めていきました。発災から1週間が経過した9月7日のSPF内部ミーティングで



小グループに分かれて話し合う様子

は、毎晩情報共有会議を行ってきたことでメンバーの中に疲弊感が漂いはじめていましたが、情報共有会議の開催を週2回に見直すことを決め、こんな時だからこそ飲み会を開催し、さらにメンバー間の繋がりを強固にしていきました。

防災・減災に向けた地域での普段からの関係づくりの重要性をあらためて感じるとともに、私たちファシリテーターが被災地で中間支援組織の組織運営を支援するという新たなカタチも見出すことが出来たのではないかと考えています。(FAJ災害復興委員会、平山猛)

広
島

発災から1年半、約100名が語り合う ～坂町地域支え合いセンター

2018年7月の西日本豪雨発生から1年半が経過した広島県安芸郡坂町で、12月20日(金)に住民福祉協議会(自治会)や老人クラブ、民生委員の方々など地域の住民(約100名)に参加していただきワールドカフェを開催しました。坂町の中でも被害が大きかった地区とそうでない地区の住民の温度差が大きいことが課題となっていました。参加された方々からは「他地区の取組を知ることが出来て良かった」「自分たちの地区でも災害が発生した場合の避難所運営について見直さなきゃ」「運動会やバザー

などの地域イベントの大切さを感じた」などの意見が聞かれました。

災害発生直後は自分たちの地区の活動をふりかえる機会もなく、ましてや他地区のことに関心を寄せることが出来なかった方々も、今回のような場が開かれることによって、あの時のことを思い出し、それぞれが今できることは何かを考える機会につながったのではないかと思います。

災害復興委員会では、坂町、坂町地域支え合いセンターおよび関係機関等の定期的な話し合いを継続的に支援しており、今回のワールドカフェのような地域住民の方々を巻き込んだ対話の場も年に数回開催しています。全国のどこかで、しかも同時多発的に災害が発生している近年ですが、今後も被災地に寄り添い、地域の復旧・復興を目指す住民の話し合いの場にファシリテーターとしての支援を届けていきたいと思っています。(FAJ災害復興委員会、平山猛)



ワールドカフェ形式で約100名が語り合う

JVOAD 第4回 災害時の連携を考える全国フォーラム 「多様な組織を巻き込む情報共有会議のあり方」

2019年5月21日～22日に実施されたJVOAD全国フォーラム「災害支援の文化を創造する」において、上記テーマで分科会を担当しました。

前半は遠藤智栄を進行役にパネルディスカッション形式で、広島県NPOセンターの松原裕樹さんから西日本豪雨の際の現状を、また鈴木まり子からは熊本

県上益城郡嘉島町の事例を共有し、その様子を杉村郁雄が板書しました。

災害時のNPO/NGO、社協、行政、地域支え合いセンターなどが主体となった情報共有会議、連携会議、ネットワーク会議などの様々な会議において、①どうすれば参加したいと思える会議をつくれるのか？ ②どうすれば多様な組織や関係者の連携を促せるのか？ ③多様な組織が参加するからこそ生まれる「智慧」をどうすれば紡ぐことができるのかの3つの視点で話を深め、参加者と共有しました。

参加したくなる会議のつくり方として、最初に知り合う時間を持つこととわかりやすい言葉で書く板書の効果について、また情報共有という体験から生まれる連携

についての実感、また平時からの連携の試みといった今後の課題について話されました。

災害時の会議運営は、そのフェイズや地域性によって多様な特徴があります。平時から何をしておくべきなのか？という問題提起をした上で、参加者同士のバズセッション(*)で感想や気づきなどを共有して終了しました。

また参加者は97名で、立ち見になるほど関心を持っていただきました。今後私たちの活動においても、平時のうちから共有できる形に整えていく重要性を感じた分科会となりました。(FAJ災害復興委員会、浦山絵里)

※バズセッション：参加者同士が数名の小グループとなり話をする。お互いが感想や気づきを交換することとなり、話題の広がりや深まりが期待できる



情報共有会議の事例を説明する松原裕樹さん(中央)

地域コミュニティと組織強化に向けてファシリテーションを身につける 日本カーシェアリング協会、ファシリテーション研修

日本カーシェアリング協会は、東日本大震災後に結成されたNPOで所在地である石巻では多くの人命・家屋のみならず6万台以上の車が失われたそうです。協会では石巻で被災された方に活用してもらうための車の寄付を集めるところから活動を始めました。その後は、仮設住宅や復興公営住宅等の地域コミュニティで住民が自主運営する支え合いのカーシェアリングの導入サポート、そして日本各地の自然災害被災地での支援も行っています。

今回は、地域の自立化に向けたサポー

トを強化するために、また、団体が継続的に活動を続けるうえで、組織基盤を強化するためにスタッフがファシリテーションスキルを身につける機会を作りたいということで、研修を6月と7月の2回実施しました。

まず1回目は、よりよい話し合い・会議にするための研修。そして2回目はスタッフの実践のふりかえりを通じて改善策を検討し、話し合いのプログラムデザインを学び実践しました。スタッフからは「スタッフ全員で研修を受ける機会がなかったの

と一緒に学び共有できてよかった」「今後改善するといいいポイントがわかった」「早速実践したい」などのコメントをいただきました。(FAJ災害復興委員会、遠藤智栄)



日本カーシェアリング協会のスタッフのみなさん

実践体験から、ファシリテーションをより深く！ FAN(ファシリテーター・ラーニング・ネットワーク)、今年度も開催

ファシリテーター養成プログラム〈ファシリテーター・ラーニング・ネットワーク(FAN)〉は2019年度で5期目となりました。今回は、従来と異なり1～4期メンバーに声をかけ、日頃の実践から得た学びの交換やファシリテーションを深く学ぶ機会としました。4名の参加者とともに、

2019年11月4日(月・祝) (於：宮城県仙台市)と2020年2月1日(土) (於：福島県南相馬市)に2回開催しました。1回目は、参加者が日頃から実践しているファシリテーションについて、現場でうまくできたことや課題点、また、参加者のbefore/afterなどを振り返り、その要因を深ぼることで、どうす

れば場やコトをうまく促進できるのかを共に考える機会としました。2回目は、復興支援の現場のテーマをもとに、メンバーに模擬会議を実践してもらい、場でどのようなことが起きていたのかを振り返り、どのような時に、どのような方法でファシリテーターは場に介入するのかをお互い学

びました。様々な思いが入り交じる復興の現場で今回の学びを活かせてもらえたらと願っています。2回目の2日目にはメンバーの発案で、福島県の沿岸部を視察する有志ツアーが開催され、福島県の今をともに感じ、考えることができました。(FAJ災害復興委員会、杉村郁雄)



輪となり、お互いの話に耳を傾ける様子



板書を活用しながらのグループワーク

さまざまな支援のカタチを、より多くの方に発信 ボランティア交流サミットひろしまでFAJとして話題提供

2020年2月2日に開催された、第7回ボランティア交流サミットひろしま(主催：ひろしまNPOセンター／広島県社会福祉協議会)に参加し、FAJ災害復興委員会として分科会「多様な支援者との連携やネットワークのつくり方」で話題提供しました。



およそ150名が参加した当日の様子

被災地でのボランティアというと、土砂出しや家屋の片付け等の作業がクローズアップされがちですが、様々な支援のカタチがあることを多くの人に知ってもらいたいという意図で、西日本豪雨災害でのネットワーク会議(情報共有会議)における板書ボランティアについて話をさせていただきました。他2名の登壇者からは、弁護士の今田健太郎さん(広島弁護士会)の被災地での法律相談・支援の話、写真家の汰木志保さんが取り組まれているボラ写PROJECTでの被災地の写真を使った情報発信の話があり、いずれも専門的なスキルや知識・経験を活かして被災地

の支援につなげている事例が紹介されました。

職場などで使われているファシリテーションや板書(グラフィック)のスキルは、災害発生後の被災地でも求められており、ファシリテーターとして支援が出来る場はたくさんあります。自分は何が出来るだろうか?と考えている人が、実際に被災地に足を運んでみて、被災した方々が困っていることに対して自分はどのような支援ができるかを考えることが、もっと多くの新しい支援のカタチを生み出していくと考えています。(FAJ災害復興委員会、平山猛)

2019年度 活動一覧

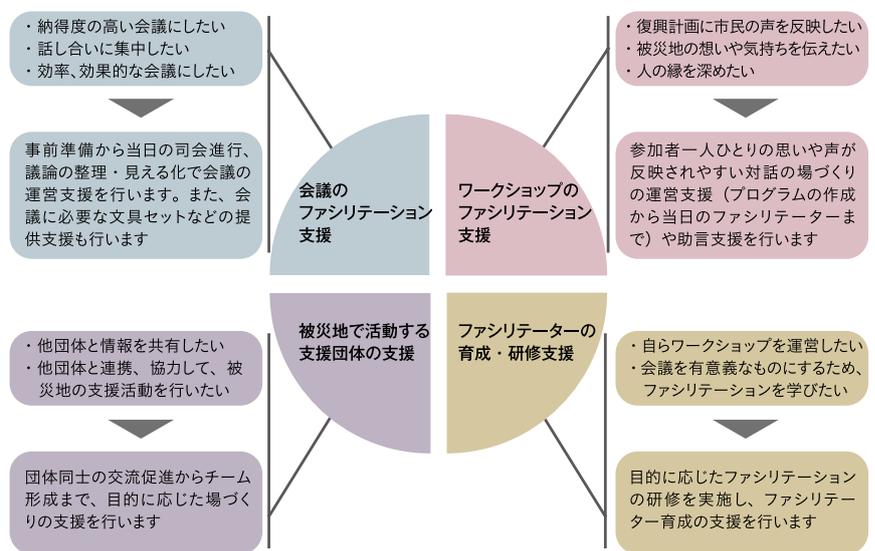
4月14日	ひろしまネットワーク会議(広島県広島市)	10月20日	宮城県災害ボランティアセンター支援連絡会議(宮城県仙台市 / 他6回)
4月24日	坂町支え合いセンター支援(広島県安芸郡坂町 / 他6回)	10月24日	板書ボランティア練習会 in 仙台(宮城県仙台市)
5月10日	宇和島支援団体 朝倉・日田スタディツアー(大分県日田市)	10月28日	台風15号災害支援関係者情報共有会議(鴨川)(千葉県鴨川)
5月17日	嘉島町地域支え合いセンター運営会議(熊本県上益城郡嘉島町 / 他2回)	11月4日	ファシリテーター養成プロジェクト:FAN(宮城県仙台市)
5月21日	JVOADフォーラム分科会(東京都墨田区)	11月22日	板書ボランティア勉強会(神奈川)(神奈川県横浜市)
6月4日	石巻カーシェア支援(宮城県石巻市 / 他7月12日にも実施)	11月25日	長野県情報共有会議(長野県長野市 / 他8回)
6月28日	全国情報共有会議(東京都千代田区 / 他3回)	12月5日	丸森町災害情報共有会議(宮城県丸森町 / 他7回)
7月14日	広島県災害支援板書ボランティア養成練習会(広島県広島市)	12月26日	台風19号における被災者の生活再建に関する研修会(栃木県)(栃木県宇都宮市)
8月26日	内閣府業務における災害時の連携に関わる研修会・訓練の支援業務(奈良)(奈良県大和高田市)	1月5日	長野県高大生ファシリテーション研修(長野県長野市)
※他に9/28愛媛県松山市、11/21滋賀県大津市、12/3神奈川県横浜市、12/9静岡県静岡市、2020/2/7佐賀県佐賀市、2/13岩手県盛岡市で実施		1月14日	信州農業再生復興ボランティアプロジェクト第2期第1回企画会議(長野県長野市)
8月31日	令和元年8月豪雨 佐賀・福岡情報蒐集	1月15日	長野県長沼ほっこりお茶会(情報共有会議)(長野県長野市)
8月31日	佐賀災害支援プラットフォーム(SPF)内部会議(佐賀県佐賀市 / 他3回)	2月1日	ファシリテーター養成プロジェクト:FAN(福島県南相馬市)
9月13日	宇和島支援団体ふりかえりWS(愛媛県宇和島市)	2月2日	ボランティア交流サミットひろしま(広島県広島市)
9月17日	千葉県台風15号災害支援者打ち合わせ会(千葉県千葉市 / 他9月26日にも実施)	2月21日	静岡県内外のボランティアによる救援活動のための図上訓練(静岡県静岡市)
10月7日	やまがた避難者支援協働ネットワーク意見交換会(山形県山形市)	3月18日	長野県長沼ほっこりお茶会(情報共有会議)(長野県長野市)
10月15日	千葉でファシリテーションについて語る会、板書練習会(千葉県千葉市)	※活動会員数143人、受益者数2905人(延べ人数)	

日本ファシリテーション協会と災害復興委員会

ファシリテーション(Facilitation)——、人と人、人とコトとの関わり方に働きかけ、集団による学習や問題解決、未来創造などの場においてプロセスと結果がよりよいものとなるよう支援・促進することを意味します。その役割を担うのがファシリテーターで、話し合いの場で参加と相互作用を促す進行役などがわかりやすい例です。

特定非営利活動法人日本ファシリテーション協会(FAJ: Facilitators Association of Japan)は、ファシリテーションの普及を通じて、多様な人々が協働しあう自律分散型社会の発展を目指し2003年に法人として設立、2004年には内閣府より特定非営利活動法人(NPO)の認証をうけました。2019年5月現在、約1532名の会員が活躍する団体となっています。

災害復興委員会は、2011年3月11日に東北・関東を襲った地震・津波・原発事故の複合大災害直後にFAJ内に設置され、以後、「地域コミュニティの再構築・住民主体の復興支援」、「支援機関同士のネットワーク強化」を柱に各地で活動しています。



特定非営利活動法人日本ファシリテーション協会

災害復興委員会 2019年度 活動報告書

2020年5月23日発行

編集 特定非営利活動法人日本ファシリテーション協会 災害復興委員会

浅羽雄介、浦山絵里、遠藤智栄、遠藤紀子、杉村郁雄、鈴木まり子、疋田恵子、平山猛、山田真司

発行 特定非営利活動法人日本ファシリテーション協会 東京都渋谷区千駄ヶ谷三丁目12番8号 www.faj.or.jp

お問い合わせ(Eメール) fukkou311@faj.or.jp